

福岡市セーリング連盟

【設立年月日】 1962（昭37）年1月10日

【加盟年月日】 1962（昭37）年1月25日

【歴代会長】

1962（昭37）年 平 田 潔

1966（昭41）年 帆 足 万次郎

1969（昭44）年 篠 原 雷次郎

1985（昭60）年 柳ヶ瀬 勉

2001（平13）年 高 田 茂 美

2009（平21）年 松 本 孝

【歴代理事長】

1962（昭37）年 高 田 茂 美

1966（昭41）年 川 口 和 男

1969（昭44）年 林 鉄 二

1974（昭49）年 秋 山 雄 治

【沿革】

福岡市セーリング連盟は福岡県ヨット連盟の福岡支部として1962（昭37）年1月に発足し、福岡市体育協会に加盟しました。

博多湾のヨット（セーリング）の歴史は古く、九州大学にヨット部ができたのが1927（昭2）年、日本の大学で最初のヨット部です。

博多湾は海の中道や糸島半島に抱かれて玄海の荒波を押さえ、適度な風に恵まれた日本有数のセーリングに適した海面です。

日本が初めてオリンピックにヨットの代表選手を送り出したのが1936（昭11）年のベルリン大会で、その時の日本代表として博多湾育ちの九州大学OBの三井卓雄、龍野一彦が出場しました。

太平洋戦争後は博多湾にはいち早くヨットがセーリングするようになり九州大学、修猷館高校（当時は中学）のヨット部が活動していきました。第3回の福岡国体開催を機に西南学院大学、同高校、福岡高校にもヨット部が創立され、恵まれた博多湾の中で成長していきました。

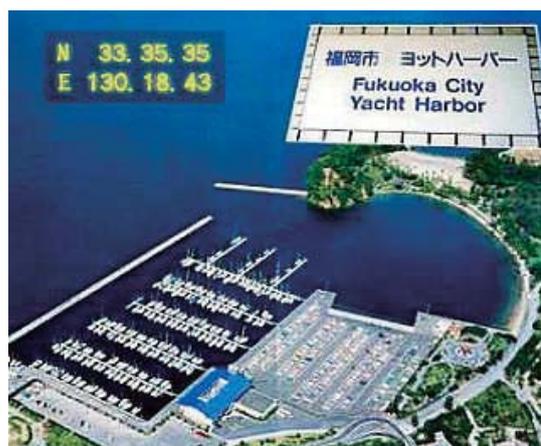
福岡市体育協会が誕生した1962（昭37）年頃

の福岡のヨット界は東京オリンピックに焦点を合わせ、数名の候補選手を有しその強化に力を注いだ頃でありました。

東京オリンピックにはドラゴン級代表選手として、棚町三郎（修猷館高校一慶応義塾大学OB）を送り出しました。

又、オリンピックのヨットの競技運営役員として福岡支部より約30名が会場の江ノ島ヨットハーバーに乗り込みレース運営に当たり、その経験とノウハウが現在でも役立っています。

その頃の福岡のヨット界は九州大学を中心としたグループは名島から志賀の島を基地として活動し、西南学院大学、同高校、修猷館高校を中心としたグループは百道、福岡大学を中心としたグループは小戸を基地として活動していたが博多湾内の埋め立て等の影響で百道海岸が使用しにくくなってきたので、博多湾に本格的ヨットハーバーが欲しいとの願望が福岡のヨット界に強く持ち上がり、当時会長であった篠原雷次郎、副会長冬至堅太郎、理事長林鉄二、理事高松隆之助等が中心となり福岡市当局に対して陳情書を提出したりしてヨットハーバー建設推進のあらゆる働きかけをしました。



ヨットハーバーを空から望む

福岡市がアジア大会の誘致で動き出したときに計画が検討され、昭和49年全国高校総合体育大会、福岡開催が決定されたのを機にヨットハーバー建設

が実現し、1974年（昭49）年に福岡市西区小戸に完成しました。1975（昭50）年正式開港したのが大きな起爆剤となり一般市民のヨット愛好家も増加し、また競技レベルも飛躍的に進歩し、このヨットハーバーは福岡市民の海洋スポーツの基地としてその普及と振興に大きな役割を果たすようになりました。

又このヨットハーバーは市の中心部から30分と言う立地条件の良さと夏季においても適度な風が吹き波と潮流の影響がすくないと言う海象条件の良さが各種の全国選手権大会等の開催の要望が強く、毎年何らかの全国大会が開催され、国際大会も数年毎に開催されるようになり、この種の大会の運営には実績を積み、運営各分野での人材も育ち、オークランドー福岡ヨットレース（'89,'93）国際親善ジュニアヨットレース（'89）第27回世界ユースヨット選手権大会（'97）など国際大会の大きなイベントの開催し国際交流にも貢献しています。

オリンピック選手も数多く輩出しています。三船和馬（'80モスクワ）高木裕・山本悟（'84ロスアンジェルス）佐藤麻衣子（'00シドニー、'04アテネ）石橋顕・牧野幸雄（'08北京）上野太郎（同）。全国高等学校総合大会（インターハイ）や全日本学生選手権大会（インカレ）では、このヨットハーバーをホームポートする高校・大学が優勝・入賞の常連校となっており全国から注目を集めています。



北京五輪出場の石橋・牧野組

【現在の活動】

2006（平18）年3月、福岡市の機構改革により（財）福岡市港湾海浜管理センターが解散、翌4月、指定管理制度の導入でNPO福岡セーリング協会が福岡市ヨットハーバーの管理業務の委託を受けました。

「市民の海洋性スポーツの振興とあわせて海洋思想の普及を図る」という設置理念に則り「開かれたヨットハーバー」を合言葉に日々活動を展開しています。

具体的には、市民対象のセーリング教室の開催（生涯スポーツとして一般市民、底辺を広げる小中学生対象、希望者に随時対応する教室）しています。アスリート及び指導者の育成、子どもの健全な育成（地域の学校の交流）、環境保全（講習会の実施）国際交流を行っています。近年では地元開催のお祭り・イベントも開催されるようになりました。

現在ディンギー（小型ヨット）は5校の高校、6校の大学、市民愛好者によるクラブ、小中学生のジュニアヨットクラブが本拠地として活動しています。クルーザー（大型ヨット）は4つの団体が毎週のように定例レースを開催し、週末ともなると活気あふれるハーバーとなっています。



レース風景